

# 関西発

## ワイド やて みなはれ

京大で学ぶドイツ人留学生

マルクス・  
リュウシュさん(27)

親鸞について、日本語で滑らかに話す。ドイツの主立った大学の一つ、ベルリン自由大学の大学院生で、昨年から京都大学人文科学研究所の留学生として、この聖人の研究を進めている。

出身はベルリン。高校生のとき、母親が借りてきたDVDで映画「ラストサムライ」を見て、寺や瞑想に興味を持った。「なぜ表情や雰囲気があんなに落ち着いているのか不思議でした」

略歴 ホームステイなどを含めて日本滞在は今回で5回目。先月、日本人の歴史学研究者と結婚した。関西弁と自転車が好き。

### 親鸞の実像 本や文化で迫る

ベルリン自由大学で日本学を学び、4年前に大谷大学(京都市北区)に留学した。半年にわたって図書館で本を読みあさる中で、五木寛之さんの長編小説「親鸞」に出会う。親鸞が90歳で往生するま

での歩みを知り、「こんなふうな伝記を通して思想が脈々と後世に伝わるのではないか」と思い描いた。親鸞の様々な伝記を調べた後、いったんドイツに戻って修士論文にまとめた。



博士課程に進み、再び来日して京大で研究にいそむ。親鸞のひ孫が残した史料など主に五つの書物を読み進めながら、様々な悩みをどのように乗り越えていったのかという聖人の実像に迫ろうとしている。

親鸞がたびたび滞在したといわれる東本願寺の岡崎別院(京都市左京区)で月に2度、着物で茶道を習う。近く小鼓の教室にも通い始める。「書物だけでなく、日本文化が体験できるツールからも、親鸞たち仏教者が考え続けた『聖』を知る手がかりをつかみたい」と話している。

(河野通高)